



角 有伊 うるし展

本館6階 美術画廊【漆芸】

1968年石川県生まれ。父である故・角偉三郎氏の意味と意匠を受け継いだ工房で精力的に制作活動が続けている。代表作である合鹿椀、へぎ板などを中心に、盆や重箱など華やかな席にもふさわしい漆器やオブジェ作品も加え一堂に展観。

10.1 WED~10.6 MON



「曲輪八段重 ちりかけ黒金蒔絵」
H28×W37×D16.2cm
漆

大野 佳典 展

本館6階 美術工芸サロン【陶芸】

1978年福岡県生まれ、2012年茨城県つくば市に築窯、現在に至る。国内外での受賞・招待出品など、活躍の場を広げている。ろくろで形成された凛々しい形状に、幾何学文や波文などを丁寧に削りだすことで白磁の肌合いに端整な陰影をうつし出している。鉢や花器を中心に、酒器、器などを出品予定。

10.1 WED~10.13 MON



白磁器「颯」
H28×W35×D26cm

坂井 直樹 展

「侘び」と「錆び」の佇まい

本館6階 美術画廊【金工】

1973年群馬県生まれ。現在、東北芸術工科大学美術科工芸コース准教授。鉄を熱し、それを金槌で叩きながら形を調べていく鍛金の技法によりながら、形を与えるものとの対話を愉しむかのように長い時間をかけ、「どこか心が落ち着くカタチ」にたどり着いたものを作品とする。鉄瓶や花器からは、和・洋という空間を選ばない現代の生活空間にあった工芸作品として、独自の美しいフォルムとシャープな造形で凛とした佇まいを放っている。

10.15 WED~10.20 MON



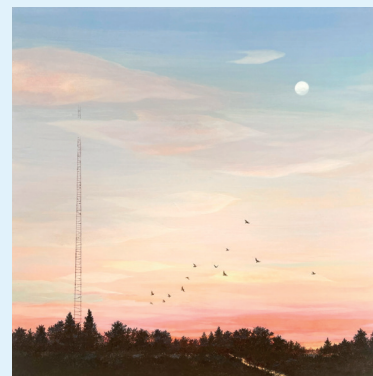
「『侘び』と『錆び』の花器」
H30×W10×D10cm
鉄、真鍮、錆

依田 万実 展
“Floating Mist”

本館6階 美術画廊【絵画】

1985年多摩美術大学大学院美術研究科日本画修了。1998年より文化庁芸術家在外研修員としてアメリカのニューメキシコ州サンタフェに滞在した際には、先住民絵画で使用された顔料の研究にも励む。今展では、空、木、動物のほかに生命の源である水を、漂う雲として描き、自然と生命の共生、時と人の歩んだ証をハシゴとして描き、生命の歩や時の痕跡、過去から未来への時空を表現。

10.1 WED~10.6 MON



「Early Morning」
H53×W53cm
麻紙、岩絵具

松岡 歩 展

—想いが伝わるとき—

本館6階 美術画廊【日本画】

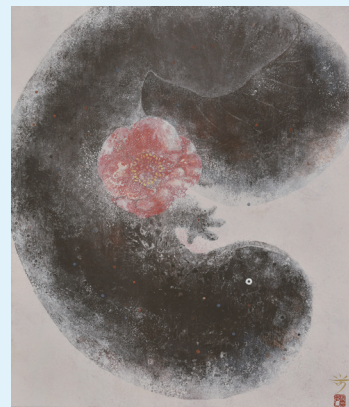
1978年神奈川県横浜市に生まれ、2005年東京藝術大学美術学部日本画専攻卒業。2010年、同大学大学院美術研究科博士課程美術専攻日本画修了、博士号を取得。

作家活動の初期からライフワークとして、両生類や海の生き物が暖かみのある色彩の中にそっと佇む姿を描く。描かれた生き物たちは愛らしさとともに存在感をまとい、静謐な雰囲気ながらも雄弁な作品が魅力。本展では大作の屏風作品から小作品まで、30余点を一堂に展観。

【ギャラリートーク】

10月11日(土)午後3時から

10.8 WED~10.13 MON



「心」
H53×W45.5cm
紙、岩絵具

八木 明 陶展

本館6階 美術画廊【陶芸】

日本の現代陶芸の先駆者・八木一夫氏の長男として1955年に京都府五条坂で生まれ、父から陶芸の技術と精神について指導を受け、現在、宇治市郊外のアトリエで制作。磁器土を素材に轆轤技術を駆使して制作される青白磁のうつわや蓋物は、エッジや鐙の持つ表情の多様なバリエーションによって独自の造形美の存在感と、空間との繋がりを演出している。最近注力している壁面作品をはじめ蓋物や香炉、花入、茶碗、水指、酒器などを展観。

10.15 WED~10.20 MON



「青白磁大甕」
H49.5×W42.6×D42.6cm
磁土、金属

山本 真衣 硝子展
-どれにする?-

本館6階 美術工芸サロン【ガラス】

1985年東京都生まれ。2007年イギリス、ウルバーハンプトン大学美術学部ガラス科を卒業後、2010年東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻修士課程を修了。その後潮工房にて小西潮・江波富士子氏に師事。Kawaii大賞展ではグランプリを獲得するなど、カットガラス、切子という伝統的な技法を主に用いながら、現代のかつかわいさやさわやかさを醸し出す作品が魅力。

10.15 WED~10.20 MON



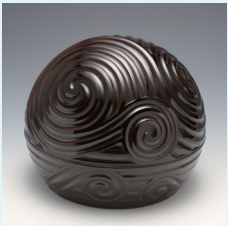
「どれにする？」
ガラス

第7回 悠游会

本館6階 美術工芸サロン【彫刻・工芸】

木彫、根付作家を中心に、彫刻・工芸作品を一堂に展覧。日常の生活空間に温もりを感じる心と作品や、日本の伝統技法により制作された作品など、人気作家約20名による40余点の作品を出品。

10.22 WED~10.27 MON



(上) 池田 朝重「彫漆 渦文箱」
H19×W21cm
漆、麻布

(下) 瀧川 佐智子「蓮」
H18×W23cm
ひば



豊海 健太 個展

本館6階 美術画廊【漆芸】

「メタモルデコレーション」

1988年生まれ。金沢美術工芸大学にて漆芸を専攻し、2018年に博士号を取得。金沢卯辰山工芸工房に勤務ののち現在は京都府で指導。主に銀、螺鈿、卵殻などによる加飾と蒔絵や変り塗りといった、漆芸の伝統技法を用いた平面作品が国内外より高い評価を得ている。日本橋高島屋初個展。

10.29 WED~11.3 MON



「Jewel Beetle05」
H100×W100×D0.3cm
漆、タマシの羽根、金粉、アルミ板

北川 健次 展
逆さ文字×吊りさげられたプレヒトの七月の感情

本館6階 美術画廊X【現代アート】

1952年福井県生まれ。多摩美術大学大学院研究科修了。近代を代表する銅版画家である駒井哲郎氏に技法を学び、大学在学中には作品が棟方志功氏や池田満寿夫氏らに高く評価され、作家としての活動を開始。版画のほかオブジェ、コラージュも制作し、詩や評論も手掛け、それらの幅広い活動により生み出される「視覚化された詩」と評される新作オブジェ60余点を一堂に展覧。

10.15 WED~11.3 MON



「直線で分割された聖セバスチアンの肖像」
ミクストメディア

天目 鎌田 幸二 展

本館6階 美術画廊【陶芸】

1948年京都府生まれ。20代前半で国宝などの天目茶碗に魅せられて以来、天目釉一筋に茶、黒、銀など様々な色に変化する鉄釉の特性を地紋や紋様に活かし、鎌田天目と称される独自の世界を構築。夜空や水墨画のごとき景色を醸し出す神秘的な輝きと豊かな表情が魅力。今展では茶碗、壺、香炉、花生けから酒器まで約80点を展覧。

10.29 WED~11.3 MON



「耀変紫光天目香爐」
H11×Φ12cm
陶

二見 光宇馬 陶仏展

本館6階 美術工芸サロン【彫刻】

1976年、静岡県熱海市生まれ。2001年、玉川大学農学部農学科卒業。2008年、陶器にて仏像の制作を始め、2015年京都府に工房を移す。今展は京都・鞍馬の山の土と、愛知・渥美半島の赤土を用い、その土と対峙し一心に指先でちねり、無我無心に「ほとけさま」を作陶。一体として同じ表情がなく、柔和で温かな小さな世界を表現。

10.29 WED~11.3 MON



イメージ画像
陶

		10月																																
		1水	2木	3金	4土	5日	6月	7火	8水	9木	10金	11土	12日	13月	14火	15水	16木	17金	18土	19日	20月	21火	22水	23木	24金	25土	26日	27月	28火	29水	30木	31金		
本館6階	美術画廊	角 有伊うるし展						準備会場	松岡 歩 展						準備会場	坂井 直樹 展						準備会場	休廊						準備会場	鎌田 幸二 展 ※11月3日(月・祝)まで				
		依田 万実 展														八木 明 陶展														豊海 健太 個展 ※11月3日(月・祝)まで				
	美術画廊X	藤田 朋一 展												準備会場	北川 健次 展 ※11月3日(月・祝)まで																			
	美術工芸サロン	大野 佳典 展												準備会場	山本真衣 硝子展						準備会場	第7回 悠游会						準備会場	二見 光宇馬 陶仏展 ※11月3日(月・祝)まで					
2本館	アートアベニュー	清水 真由美 展 ※11月17日(月)まで																																

誠に勝手ながら都合により催内容、会期など一部変更または中止となる場合がございます。営業日・営業時間、催内容、会期の最新の情報は高島屋ホームページをご覧ください。



高島屋各店美術画廊・展覧会のご案内はホームページでもご覧いただけます。

高島屋 美術

検索

